

国連気候変動枠組条約補助機関第16回会合

2002年6月10日 月曜日

実施のための補助機関 (SBI) は、月曜日の朝、開会のミーティングを行い、続いて午後にはさらなるセッションを行った。SBI は、組織上の問題、国別報告書、資金メカニズム、WSSD への準備、政府間会議のアレンジ、その他運営上、資金上の問題を取り上げた。

これに加えて、コンタクトグループが、議定書 5 条(手法上の問題)、7 条(情報の連絡)、8 条(情報の検討)、温室効果ガス目録、UNFCCC6 条(教育、訓練、啓発)、IPCC 第三次評価報告書(TAR)に関する作業を継続するため、会合した。

SBI

開会プレナリーと組織上の問題: SBI 議長の Raúl Estrada-Oyuela(アルゼンチン)が、SBI-16 の第一回会合を開会した。開会の辞で、UNFCCC 事務局長の Joke Waller-Hunter は、実施に注目することを強調し、この点での SBI の重要な役割を指摘した。

議題 (FCCC/SBI/2002/1 と Add.1)の採択に関して、 カナダは、SBSTA の開会の際にも指摘されたとおり、議定書 2.3 条(悪影響の最小限化)実施に関する議題項目の状況に関する不確実性を、取り上げた。G-77/中国は、この項目を議題に含めることを支持したが、EU と日本はこれに反対した。日本はこの項目を保留とするよう求め、スイスは、一部の議題項目で異論はあっても、作業は継続可能ではないかと指摘した。米国は、SBI による UNFCCC 4.8 条と 4.9 条(悪影響)の考察と、SBSTA による IPCC TAR の考察の間での重複の可能性について、注意を促した。同代表はまた「UNFCCC プロセスの透明性」と称する追加議題項目を提案した。議題の採択は延期され、締約国は、他の議題項目の考察継続で合意した。

付属書 I 諸国の国別報告書: 付属書 I 締約国からの国別報告書について、事務局は、報告書のレビュー考察に関する文書(FCCC/SBI/2002/3)を提出した。この文書は、付属書 I 締約国における 1990-99 年での温室効果ガス排出傾向についての情報を提示するものであり、国別報告書考察プロセスの改善と、国別報告書レビュープロセスでのオプションを提案している。Estrada 議長は、締約国に対し、文書に関してコメントをし、国別報告書のより効果的な利用について提案するよう求めた。

1990 年以後の排出水準の傾向を観るなら「自己満足の余地など」残されていない、と EU は述べ、また同文書の提案は、さらに考察する価値があるとして、結論書案を SB-17 で検討するよう提案した。中国は、G-77/中国を代表して、国別報告書のレビューは重要な作業であることを強調し、全ての締約国が関わるべきであるとした。スイスは、事務局の提案は、より詳細な調査をする必要があると述べた。カナダ、米国、オーストラリアは、現在のプロセスが十分機能しており、追加のプロセスや現時点でのいかなる修正にも反対すると言明した。ノルウェーは、政策措置に関する SBSTA の作業と国別報告書に関する SBI の作業を関係させることを提案した。

第三次国別報告書のレビューに関する状況報告に関して、Estrada 議長は、報告書 (FCCC/SBI/2002/INF.4)に焦点を当て、事務局が、追加の国別報告書提出を待って、SB-18 用に統合と統括の報告書を作成する予定であるとの認識を示した。Estrada 議長は、金曜日の SBI での検討のため議題項目に関する結論書案を作成する予定である。

非付属書 I 諸国の国別報告書: 非付属書 I 締約国からの国別報告書に関する専門家諮問グループ (CGE)の作業について、Estrada 議長は、経験共有ワークショップに関する報告書 (FCCC/SBI/2002/INF.3)と、CGE 第 4 回会合の報告書 (FCCC/SBI/2002/2)に出席者の関心を促した。CGE 議長の Isabelle Niang-Diop (セネガル)は、CGE の活動について報告し、国別報告書作成への資金的、技術的支援の重要性を強調した。本議題項目の残りの問題の検討は、延期された。

WSSD への準備：Yahyaoui Abdelaziz (モロッコ)は、持続可能な開発世界サミット(WSSD)のための準備状況について報告し、実施方法に関する交渉は、まだ未解決のまま残っていると、指摘した。パキスタンは、G-77/中国を代表して、WSSD に対する同グループのコミットメントを表明し、締約国がリオでの約束を守れないでいることに懸念を示した。

資金メカニズム：資金メカニズムのレビューについて、Estrada 議長は、締約国に対し、地球環境ファシリテーター(GEF)の実績に関するフィードバックを行うよう求めた。タイは、G-77/中国を代表し、第2回レビューを待ち望んでいると述べた。EU は、GEF による中規模プロジェクトへの資金提供を支持し、プロジェクトサイクル能率化への努力を歓迎した。カナダは、レビューが、少数の実際的な提案に焦点を当ててくれることを希望した。ロシア連邦は、説明責任を強調した。締約国は、Rawlestone Mooreを議長とする非公式な議論を行うことで合意した。

政府間会合へのアレンジ：事務局は、政府間会合へのアレンジに関する文書(FCCC/SBI/2002/4)を提出し、これには、COP-8 京都議定書の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議(COP/MOP-1)の第一回会合へのアレンジ、将来のセッションでのプログラム、会議サービスの予算、COP-9 に関する情報が含まれていた。

COP-8 について、事務局は、各国のステートメントを含む高官セグメントの代わりに、円卓での議論することを提案した。EU、ニュージーランド、スイス、サウジアラビアは、閣僚や代表団団長の参加を主張した。Estrada 議長は、COP 議長団に対し、円卓会議の問題について作業を行い、閣僚が議論する項目のリストについて打ち合わせるよう求めた。

COP/MOP-1 へのアレンジに関して、EU は、COP と COP/MOP に共通する問題と、必要な規則や手続きの定義に関する作業を支持した。カナダ、ニュージーランド、ノルウェー、オーストラリアは、現存する UNFCCC の手続き規則の利用を支持する一方、主要な規則の一つでまだ合意がされていないことを指摘した。オーストラリアは統括会合に反対した。

将来のセッションでのプログラムに関して、事務局は、ワークショップ増加への懸念を強調した。EU と日本は、効率的なプロセスを呼びかけ、ノルウェーは、ワークショップを補助機関のセッション直前に開催することを提案した。イランは、それが小規模代表団に負担をかけることへの懸念を表明した。Estrada 議長は、ワークショップに優先順位をつけ、ワークショップの準備を改善することを提案した。

会議サービス予算について、米国、日本、カナダは、会議費用が UNFCCC の予算でまかなわれるべきであり、国連総会(UNGA)の予算でまかなわれるべきではないと述べた。アンティグア・バービューダは、UNGA からの会議資金手当の問題は、オープンな問題として残されていると述べた。

COP-9 の問題に関して、Estrada 議長は、その場所がまだ決まっていないことを指摘した。

運営上、資金上の問題：事務局は、2002-2003 年の2年間に関する中間財務実績報告(FCCC/SBI/2002/INF.5)を提出した。同代表は、現在190の寄託が未納となっている事実注意到意を促した。Estrada 議長は、この議題に関するSBIの結論書草案を作成すると述べた。

寄託金の支払い遅延に対する可能なオプションに関して、事務局は、この情報の公開が、時宜を得た支払いを奨励したと述べ、COP-8 での採択に向けてSB-15が回してきた決定書草案に関心を促した。

本部契約の実施に関して、ドイツは、進展報告を提供し、ボンでの国連キャンパスと新しい会議施設の計画が進展していることを述べた。UNFCCC 事務局長のWaller-Hunterは、計画を歓迎し、ドイツ政府に感謝した。

コンタクトグループ

5条、7条、8条：出席者は、議定書3.2条の下での実証可能な進展に関するCOP-8決定書案を検討した。G-77/中国とAOSISは、進展が行われたことへの評価に対する懸念を強調し、文書案を提供すると述べた。5条、7条、8条の下でのガイドラインに関するSB-16結論書案に移って、カナダは、依然

保留されているガイドラインの一部につき、SB-16では合意されない可能性があることを注意し、また、結論書が、ガイドラインに関する作業の基礎となる共同議長文書案送致を提案するよう、改正されていることに注意を促した。締約国が5.2条の下での調整に対する技術的なガイダンスを完成させるとした結論書案は、必要ならばCOP-9の期間も作業を継続する柔軟性を残すように、改正された。

締約国は、国内登録簿のレビューに関する草案の、8条の下でのレビューガイドライン組み入れを、検討した。ニュージーランドは、同代表の提案する修正について説明し、特に電子的となる予定のレビュープロセスが、拙速に判断されるものであってはならないことを強調した。同代表は、データ交換の技術基準に関する議論が進行中であることを指摘した。

温室効果ガス目録:このコンタクトグループは、午後と夕方のセッションで会合し、出席者はUNFCCCの報告とレビュー作成ガイドライン(FCCC/SBSTA/2002/2とAdd.1)の利用での経験を評価する専門家会合の報告書で取り上げられた手法上の問題を、検討した。

夕方のセッションでは、共同議長のAudun Roslandが、技術的な折衝により、排出源分類、附属書での編集上の変更、CRFの表を含めた改訂ガイドラインに関する問題が、解決されたことを報告した。その後、締約国は、報告作成ガイドラインを再度取り上げた。CRFsのインターネット上での公表に関して、EUは、より透明性のあるプロセスを確保し、情報への効率的なアクセスを提供するため、UNFCCCのホームページにCRFsを含めるべきであると述べた。ニュージーランドは、事務局が、そのような任務を負担するべきでない、と述べた。そのうえで締約国は、手法に関する附属書についての議論を再開し、折衝は夜遅くまで継続された。

6条:共同議長のS. N. Sok Appaduは、6条に関する作業プログラムについての結論書案と決定書草案の共同議長提案を提出した。締約国は、パラグラフごとの文章の変更について議論した。ペルーは、気候変化に関する6条規定の活動と、地域汚染問題での似たような活動との関係を提案したが、ブラジルはこれに反対した。カナダは、提案された決定書草案についての論議をSB-17まで延期し、締約国に対して、その可能性ある影響を評価するのに十分な時間を与えることを、主張した。GEFの代表は、資金源についての言葉を慎重に検討するよう促した。折衝は夜遅くまで続けられた。

IPCC TAR ::共同議長のRawleston Mooreは、最新の結論書案を提出し、その案は、前回のコンタクトグループ会議で締約国が表明したさまざまな見解を組み込もうとしたものである、と述べた。G-77/中国、EU、カナダ、オーストラリア、米国、日本を含めたいくつかの締約国は、この文章が自分たちの作業の良い基礎になると述べ、バランスのとれたアプローチの必要性を強調した。

締約国は、その後、パラグラフごとに結論書案を検討した。将来のルーチンの議題項目検討を容易にするため、TARを利用して事務局が文書を作成するよう求めている箇所について、G-77/中国は、そうではなく締約国からの提出を求めるとした改定案を提案した。同代表は、セシエルとともに、6ヶ月間追加するなら、途上国によるTARのより慎重な検討も可能になることを示唆した。日本、オーストラリア、ニュージーランド、その他の附属書I締約国は、さらなる一連の提出が必要かどうかを疑問視し、SB-17に間に合うよう、事務局による文章補佐活動を望んだ。

残ったパラグラフのいくつかに関する締約国からの広範囲なコメントの後、Moore共同議長は、締約国の見解を取り入れた改訂文書が、火曜日に提出されると述べた。

廊下にて

月曜日の朝、見事に日焼けした顔がバリからの到着を物語っている何人かの新顔も含め、出席者がマリタイムホテルに戻るなり、厳しい折衝が再開された。参加者は、夕方のUNFCCCの署名開始10周年を祝うレセプションでは、お祭りムードであった。交渉担当者の小グループは、ある参加者が「すねていた」と称したIPCC TARのセッションのため、パーティーに出られなかったが、レセプションで交わされていた会話は、その日の始めに採択が延期されてしまったSBI議題書の問題に集中していた。いまや全ての出席者にとっておなじみの二つの議題項目が、一部の締約国には受け入れられないことが明らかとなったのである、つまり、よりクリーンなあるいはより温室効果ガス排出の少ないエネルギーに

に関するカナダ案であり、また議定書 2.3 条に関する議論を含めるとのサウジアラビア案である。一部の出席者は、これら二つの問題が、火曜日にお互いどのような動きを見せるか、推測を試みていた。

今日の注目

SBI: SBI は、非付属書 I 締約国からの国別報告書、UNFCCC4.8条と 4.9 条(悪影響)、LDCs、そしてキャパシティビルディングについて検討するため、プレナリー I で午前 10 時から会合する。

SBSTA: SBSTA は、午後 3 時にプレナリー I で会合し、その議題書を採択するものと思われる。その後 SBSTA は、技術移転、よりクリーンなまたはより温室効果ガス排出の少ないエネルギーに関する提案、議定書 2.3 条実施の検討を含めるとの提案、そして SBI から委託された問題について、検討する。また AIJ に関する手法上の問題、LULUCF に関するグッドプラクティスガイダンスについても検討する。

コンタクトグループ: コンタクトグループは、5 条、7 条、8 条、P&Ms、温室効果ガス目録に関するガイドライン、6 条、そして IPCC TAR に関して会合を行う。